

彩の国資源循環工場環境調査評価委員会（第2回）について

彩の国資源循環工場運営協定に基づいて5月9日に実施した防災調節池の環境調査において、測定項目のうち水素イオン濃度（pH）が8.8となり、参考としている環境基準の示す値の範囲（6.0～8.5）を上回っていました。

県は予防的観点から、原因を把握するために追跡調査を実施しました。

今回、追跡調査等の結果について報告し、審議いただきましたので概要をお知らせします。

なお、議事録を希望される方は、資源循環推進課代表メール（a3100@pref.saitama.lg.jp）あて御連絡ください。

- 1 開催日時 平成19年7月27日（金）午後1時30分～午後3時
- 2 会場 さいたま商工会議所会議室
- 3 出席委員

区分	氏名	職名	委員長
専門家	吉本國春	東洋大学工学部教授	(欠席)
	寺嶋均	(社)全国都市清掃会議技術部担当部長	
	村山武彦	早稲田大学理工学部教授	
地元代表	鳥塚守良	寄居町連合環境協議会会長	
	青木伸明	小川町木呂子地区環境対策協議会会長	

4 議事概要

(1) 防災調節池pH追跡調査結果について

【事務局説明】

追跡調査では、すべての試料で、pHは参考としている環境基準の示す値（6.0～8.5）の範囲内であった。

pHが8.8を示した5月9日の試料のR pH 及びDO の値から、当日のpH上昇は光合成の影響によるものと推定された。

塩沢川河川水は、5月9日がpH8.2、6月4日の追跡調査がpH

7.9で、参考としている環境基準の示す値（6.0～8.5）の範囲内であり、河川への影響は認められなかった。

用語の解説

RpH： 空気を十分に通気した後のpH値で、光合成により失われた二酸化炭素が空気を通気することにより供給され、光合成前のpHを観測することができることから、光合成による影響を評価することができる。

DO： 溶存酸素量と呼ばれている。水中に溶けている酸素の量を表す。

【委員会としての意見】

5月9日の防災調節池におけるpH上昇の原因は、藻類の繁茂、季節的な要因で光合成が活発に行われた結果であると認められる。

今回のpH8.8という数値は人体に影響を与える程のものではないが、今後、参考に他の湖沼におけるpHの傾向を調査する。また、防災調節池のpHの調査回数を増やすなど、引き続き観察をしていくことがよいと考える。

また、今後、富栄養化と光合成の関係を把握していくため、クロロフィルの測定を検討されたい。

一週間程度前から、池の水位を大まかに把握しておくこと。

また天候も把握しておくことを検討されたい。

用語の解説

富栄養化： 湖沼等の閉鎖された水域が、窒素化合物及びリン酸塩等の栄養塩類を供給されて、生物生産性の高い富栄養湖に移り変わっていく自然現象をいう。

クロロフィル： 植物の葉緑体に含まれる光合成に関与する緑色色素。一般には葉緑素と言われてきた。植物プランクトンの餌となる無機塩類が多いと、植物プランクトンが増えてクロロフィル濃度が高くなるため、水質汚濁の指標となる。

(2)平成19年度環境調査の状況について

【事務局説明】

平成19年度の環境調査は、4月25日雨水、5月9日防災調節池、5月17～23日大気質、6月12日悪臭の4回実施している。

参考としている環境基準値を超えた項目は、防災調節池のpH以外はない。

前回の評価委員会で指摘をいただいたホームページの環境調査結果を「わかりやすい表現」にすることについて、

冒頭に「環境基準とは「人の健康を保護し及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい」基準として、行政上の目標として定

められています。」との表記をした。

読みやすくするために、箇条書きとし、今後の環境調査の予定を入れた。

採水時の天候、気温及び採取時の状況についても記載することとした。

不等号で表記していた定量下限値未満については、「未満」で記載することとした。

【委員会としての意見】

前回の委員会意見を踏まえ、「未満」の説明が加えられてわかりやすくなったが、「不検出」との違いがわかりにくいので説明を加えた方がよい。引き続き、わかりやすい公表に努めていただきたい。

(3) その他

【委員会としての意見】

現地に行き、施設や後背地の状況を見ることで、より良い審議ができるものとするので、なるべく早い時期に現地視察を実施したい。

また、このときに近くの湖沼なども視察したい。

5 今後の対応

今後、他の湖沼におけるpHの傾向を参考のため調査するほか、防災調節池におけるpHの調査回数を増やすなど引き続き観察をしていく。

また、富栄養化と光合成の関係を把握していくため、クロロフィルaの測定を検討する。

一週間程度前から、池の水位を把握しておく。また天候も把握しておく。

「未満」と「不検出」との違いがわかりにくいので、次回以降の結果公表の際には説明を加える。また、引き続き、わかりやすい公表に努める。

早い時期に施設や後背地の状況について、現地視察を実施する。その際、近くの湖沼で参考になるところがあれば視察する。